

平成 27 年 6 月 24 日
学術報告編集委員会決定

- (1) 原稿は Word 又は一太郎を用いて執筆し、A4判用紙に印刷する。書式設定は、和文は1頁を40字×25行、英文は1頁を80字×25行（語間のスペース、ピリオド、ハイフン等を含む。）として行間を充分にあけて横書きにする。執筆に当っては前年度の学術報告を参考にし、ワープロソフトで字体を指定すること。
- (2) 用語：数字は算用数字を用い、度量衡の単位および略語はCGS単位またはSI単位を用いる。数字および英字は半角文字を用いる。
[例]度量衡の単位および略語
mol、mmol、N、%、m、cm、mm、 μm 、nm、pm、 cm^2 、kl、dl、l、ml、 μl 、kg、g、mg、 μg 、ng、pg、hr、min、sec、rpm、Hz、Bq、cpm、dpm、ppm、ppb、 $^{\circ}\text{C}$ 、J、pH、LD₅₀、IU、kDa
外国語：外国人、外国機関名等は原語のまま第1字を大文字で記述する。ただし、国名、地名等は原則としてカタカナで表示する。
動植物：動植物名は原則として漢字を使用する。ただし、一般的に使用されているものに限り、それ以外のものはカタカナで表示する。
学名：学名は初出の箇所では必ず二名法による正式名を記す。それ以外の箇所では混乱の起こらない限り属名は、イニシャルのみとしてよい。種名について論ずる場合等はこの限りでない。印刷ではイタリックとし命名者名は普通字体とする。
薬品・機器名：原則として薬品名は一般名または局方名をカタカナで表示し、機器名等は一般に使われている名称を和文で表示する。
- (3) 第1頁（表紙）：表題、著者名、所属研究室名を記載し、内容を端的に表現する略表題（ランニングヘッド）を、和文論文では28字以内、英文論文では40字以内で記入する。受理年月日の行は空行とする。欄外に連絡責任者の著者名と所属を記入する。
- (4) 第2頁（和文要約、和文論文のみ）：字数は360字以内とする。要約の最下段には5語以内で日本語のキーワードを記載する。
- (5) 第3頁（英文 Summary）：英文の標題、著者名、所属研究室、300ワード以内の英文 Summary を記載する（投稿要領9参照）。Summaryの最下段には5語以内のKey wordsを記載し、連絡責任者の著者名と所属を記載する。
- (6) 第4頁以降は本文とし、原則として、緒言、材料、方法、結果、考察、謝辞、文献の各項目に区分して記述する。
図、表は英文と和文併記の標題または説明文をつけ、原稿の最後にまとめて添付する。さらに、その挿入位置を本文の右欄外に赤字で明記する。引用文献：筆頭著者（同一の場合は次著者）の姓のABC順に配列し（著者がすべて同一の場合は年代順）、本文中では引用箇所に[1、2-5]のように記載する。記述は、著者名、誌名、巻、頁、年次とする。
また、単行本の場合は、著者名、書名、訳者名、編者名、版、頁、発行者、発行地、年次とする。
なお、指定されていないものは慣例により略記する。著者は次の具体例を参考に全員列記する。訳者、編者は1名のみ記載し、その他は和文では「他」、英文では「et al」とする。英文論文の文献リストでは、日本語で書かれた文献には(in Japanese)、日本語で英文の要約がある文献には(in Japanese with an English summary)を末尾(年号の後)に記入する。

[引用文献の例]

- [1] Mikuriya, M. and Obara, I.: Stomach contents of Japanese serow, *Capricornis crispus*, from Nikko, central Japan. J. Mamm. Soc. Japan, 5, 80-81(1970) (in Japanese with an English summary)
- [2] Bulla, L. A., Rhodes, R. A. and Julian, G. St: Bacteria as insect pathogen. Ann. Rev. Microbiol., 29, 163-190(1975)
- [3] 松島欽一：麴菌プロテアーゼの天然性阻害物質に関する研究（第3報）卵白中の阻害物質(ovoinhibitor)

に就いて. 農化誌、32、211-215(1958)

[4] 岩堀修一・松本亮司・大畑徳輔:環状剥皮と摘要がポンカン果実の成熟に及ぼす影響. 鹿大農学術報告、No. 27、1-6(1977)

[5] Kim, Y. B. and Watson, D. W.: Streptococcal exotoxin. in Wannamaker, L. W. and Matson, J. M. (eds.), Streptococci and streptococcal diseases. p33-50、 Academic Press Inc.、 New York (1972)

[6] 中山包: 発芽生理学. p115-124、 内田老鶴圃、東京(1960)

[7] Martin, R. B. : 生物物理学、野田春彦訳. p99-110、東京化学同人、東京(1965)

- (7) 英文論文の原稿は和文論文に準じて作成する(投稿要領9参照)。構成は第1頁(表紙)、第2頁(Summary)、第3頁以降を本文とする。フォントはなるべく統一し(図中に使用するフォントはこの限りではない)、タイトル、本文等の各見出しはボールド体とする。本文の見出しには番号をつけない。